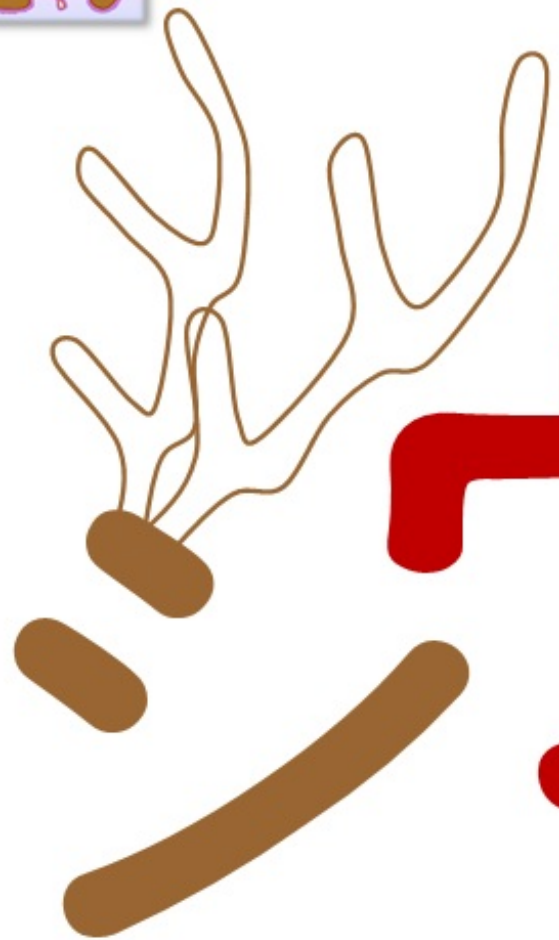




第二十三回 「うどんから目を離すな」と  
 「ウマシカを好きだなんて貂犀かも」

考



ウ

え

ア

ひとりぼっちの

乱打戦

弦楽器イルカ  + 友人

## 第二十三回 「うどんから目を離すな」と「ウマシカを好きだなんて貂犀かも」～Gから U へ～

---

ここまでの二十二回で書きたいことは書けた気がするので、同じこと繰り返すのはイヤだから、今回からはできるだけ、新しい出来事についてだけ書こうと思う。

ちょっと前にドローンが官邸にセシウム砂を運んだ件あったけど、狙いが官邸だと正直、意外性がなくてつまらないアートだと思った。

どうせなら、原発周辺の被曝してるけど持ち運んでも問題ない砂を都心の駅前にアートとして（許可を取って）撒くとか、砂にタンポポの綿毛を付けて「目に見えない放射性物質がこのように全国に運ばれていますよ」と可視化させるアートを（許可を取って）展示するとか、そういう合法なのをやってほしかったな。

あと、春樹さんが自動車事故と原発事故の違いについて言及してた話もあった。

前にUともこの件でやり取りしたけど、原発事故と自動車事故は構造的に近いしむしろ同列に並べる問題だと俺は思う。

確かに、個人が起こす自動車事故と、国策で稼働させて最悪の事故が起こった場合、国土の何分の一かが避難地域になるような原発事故では、責任の所在は違う部分もあるだろう。

ただ、原発も車も国家経済にとって最も重要な産業の一つであり、今までもこれからも国策として推進されている。これらを停滞させることは国益（と利権）に反する、極論すればどっちも必要悪だ。だから、原発より車の方が危険って論法はあんま意味なくて、ボクチンより〇〇くんの方が悪かってダダこねる幼児と一緒にしろ。

もちろん、自動車事故の対策強化や道路改革もしたらいいし、事故防止やエコの観点から自家用車をやめてバスや電車に乗ろうとかのキャンペーンはずっと前からある。社用以外の自家用車を段階的に禁止にするとかも考えられなくはないし、原発や車と今後どう付き合っていくのかって議論が本来は必要なはずだ。

ただ広告収入とかの経済が優先される社会で、車を減らせなんて真剣に言いだすヤツはいない。まさに効率（と利権）のために犠牲者を無視する、ありがたい御国の誕生だ。

だったら前から言ってるけどこの国の道徳を変えたらいい。「国家経済のために国民の生命や尊厳は犠牲にしろ」って。実際に今そうなんだから。

たとえば、集团的自衛権で派遣されるJ隊員のリスクが上昇するしないって議論もあるけど、現状で原発事故後の周辺住民や作業員の被曝リスクも認められてないんだから、J隊員だけリスクを認められるなんて虫が良すぎる話だろう。御国のために国民は犠牲になるのがこの国の当然の道徳だ。

ちなみにこの件に関連して今ネットだとどんな話題があるかを書き留めておきたいのだが、震災直後の2011年5月に福島県立医大が開催した「健康管理調査スキームについての打ち合わせ」って会議があったらしい。これは県の公式HPで今も閲覧可能なんだけど、議事録の公開を市民に求

められたのに対して、「メモや議事録は存在しないので公開できない」って回答を県はしてた（諮問第95号 答申）。

でもその議事録はやっぱりあったって今更になって暴露されて、そこで中心となる大学教授が福島は「国際的には最大の実験場という見方がある」から、県が予算をとって主体的に調査を行って発言したようだ。年間1ミリシーベルトの被曝でも補償がいるって話も当時はしてたらしい。でもこの議事録もネットでは閲覧できるけど、今んとこの新聞もテレビも特に報じてないだろう。

更に最近の学会報告だと福島の小児甲状腺ガン検査の後、摘出手術を行った79例中、リンパ節転移は約59例（75%）、肺転移が3例（4%）だそうだ。これも特に報道はない。被曝云々は置いといても、ここにある一つ一つの痛みについて春樹さんには言及してほしかったけどね。まあ、出版社が止めたんだってハルキストな俺は解釈しよう。

それにこの国の首相が米で演説してたけど、あの演説で論じるべきは、謝罪部分を削るためにこの国は米に何を貢いできたかって議論だと俺は思う。

俺は戦争責任の謝罪と同じくらい、なぜ今日中韓の対立が煽られているかって議論が重要だと思う。だって集団的自衛権も、謝罪拒否も結局、「日中韓内に対立があるから」って世論誘導がなされた上でなし崩されてる流れだから。

国家をまとめるため、求心力を得るために敵を意識して作り出す、それが反（日・中・韓）の根っこにあるのは、普通に報道もされてるし、常識的な話だ。反（日・中・韓）は金や票になるし、前にも書いたが宗教や団体が公然と絡んでる。加えて与党と野党のプロレス的抗争だけ報道してお茶を濁せば、その先にある核心の法案について議論しないですむ。

結局、謝罪するもしないも国際的な暗闘の一部分にすぎないって話を春樹さんはするのかなってちょっと思ったんだけど。まあ、これは俺の妄想ってことにしよう、きっと。

ちなみに実写劇場版の『パトレイバー』にはそこらへんの話が入ってて、個人的にはすごく面白かったしもっと流行ってもいいと思ったけど、まあ、よくよく考えると世間受けはあんましないだろうね。いつものことだけど本編90分間中、ロボットが動くのはたった3分と15秒だけだったし。ウルトラマンとか意識してんのかな。あと演技は舞台っぽくて浮いてたし。でも個人的には大満足だった。

あとこの流れに全然関係ないけどSAKUってタワレコ現役店員の女の子が歌手デビューしてた件、すごい良かったんだよ。これ紅白狙えんじゃないのかな。『ビリギャル』の挿入歌はまあまあだけど、ちょっと毒があっていい曲いっぱいある。たとえば「これって遠心力」って無造作に疑問形で歌う感じが、篠原ともえ「レインボー・ララ・ルー」の「バラ色って何色？」って歌詞を思い出したんだけど、歌詞の通りこれ今一番意味ないフラッシュバックだな。ただ小さいタワレコだと彼女のCD4枚全部置いてなかったりするから、ちょっと悲しかった。せっかく店員がデビューしてんだから全店のレジ横くらいには置いてほしい。「ご一緒にSAKUはいかがですか？」くらい言ってほしい。滅多にないことなだから。

さて、前回からの引きだったんだけど、なんかまたすっかり忘れ去られた感のある自殺から逃げる戯曲について、簡単にまとめとく。

鴻上さんなら実際自分で書きそうなんだけど、「ある劇作家が新聞に自殺から逃げろ、と書いたせいで、日本全国で遺書を書いて集団家出する学生が急増し社会問題になった。裏社会では学生たちが人身売買される事件も起きる。社会の秩序を乱したとして世間から叩かれ追いつめられる劇作家と、それを守ろうとする学生たち」の話。

マスコミに詰め寄られ逃げる劇作家をかくまう学生たちの地下組織。そこに集う学生たちは、都道府県ごとに逃げてきた目的が違う。自殺から逃げた東京出身者、原発周辺から逃げた福島出身者、米軍基地周辺から逃げた沖縄出身者、噴火から逃げた鹿児島出身者、地震から逃げた神奈川出身者、津波から逃げた宮城出身者、土砂災害から逃げた広島出身者、自動車事故から逃げた名古屋出身者、熊から逃げた三重出身者、うどんから逃げた香川出身者等々。

当人たちにとっては、どれも同じ脅威だ。どれが一番怖いのか、優先順位もつけられない。だが最終的には、どこかで折り合いをつけて、前を向いて生きるしかない。しかし、うどんだけのけ者にされる。なんでうどん？いえ、県ごとうどんにのまれようとしているんです！うどん県だからね。仕方ないよね。

ところが、世間をうどんが襲う。うどんの脅威を思い知らされる一同。

うどんを恐れるな！立ち向かえ！

うどんに対抗するため、一致団結する一同。

逃げるな、立ち向かえ、といくら外野が言っても、結局前線で戦うのは孤独な一人一人ではない。最前線に立たされているのは他でもないお前自身だ。お前が死んだら戦いはそこで終わってしまう。生き延びたければ死なないための、戦わないための戦いを自分の頭で実行するしかない。

うどんに殺されるな！

なんかこの後うどんに殺されないための美味しいレシピの紹介とかいろいろあったりするんだけど。思いがけない物が脅威になるし、他人から見てバカバカしいと思うような戦いでも自分を守るためには必要だって感じの話。

まさにこのウマシカがそうであるようにね。

今回はこんな感じ。最後ちょっとやっつけちゃったかも。

どうかな？



考えるウマシカ～第二十三回 「うどんから目を離すな」と「ウマシカを好きだなんて貂犀かも」～

<http://p.booklog.jp/book/98571>

著者：弦楽器イルカ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/98571>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/98571>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ